

様

くまもとのタネと食を守る会
代表 田尻和子

貴団体における除草剤グリホサートの使用や販売を中止することを要請します

1、食の安全、農薬の安全性に関する状況の一大変化が起きている

農薬成分グリホサートの残留基準引き上げ

2013年アメリカで、続いて2017年日本で、モンサントの農薬ラウンドアップの主成分であるグリホサートの残留基準が大幅に引き上げられました。

ラウンドアップってどんな農薬

ラウンドアップは全ての雑草に効く強力な除草剤で、もともと、遺伝子組み換え作物とセットで大量に使われていました。つまりラウンドアップに耐性のある品種を遺伝子組み換えで作り、それとセットで使うと、作物だけが残って雑草が全部枯れるので効率的なのです。モンサントが開発した遺伝子組み換えの大豆や菜種の名前がいずれも「ラウンドアップレディ」というのがその関係を象徴しています。ところが、近年、遺伝子組み換え作物の発ガン性が指摘されるようになって、遺伝子組み換え作物は主力国アメリカでさえ敬遠されるようになってきているのです。

小麦にプレハーベスト(収穫前散布)農薬としてラウンドアップを使う

そこで、大量にだぶついたラウンドアップの使用法として、小麦に対してプレハーベスト(収穫前散布)農薬として使う手法が編み出されました。実は小麦には遺伝子組み換えの品種はないので、ラウンドアップは成長中には使えません。遺伝子組み換えが普及しているトウモロコシ、大豆、菜種、綿実が飼料用、加工用が主力です。一方小麦は主食のパンとして直接食べるので、消費者に敬遠されるのを恐れて、遺伝子組み換えには元祖アメリカでも、踏み出せずにいたのです。

しかし、収穫直前であればカラが枯れてもかまわないどころか、乾燥、寒冷地で生産される小麦は、そのまま畑で立ったまま乾燥するので、乾燥させるためのコストが節約できるのです。まさにグッドアイデア。一挙にこの手法は広がりました。でも、当然ながら残留農薬は大幅に増えてしまいます。そこで、残留基準そのものを緩和することにしたのです。

輸入小麦を使った加工食品からグリホサートが検出される事例頻発

日本で小麦からグリホサート成分が検出されるような事態になったのは何故か。2017年、プレハーベストの普及したアメリカなどの輸出国の要求に応じて、輸入農産物のグリホサート農薬残留基準が大幅に緩和されたからです。小麦は改訂前 5ppm から改訂後 30ppm ですから 6 倍の緩和です。そばに至っては 0.2ppm から 30ppm と実に 150 倍の緩和になります。

結果、パンなどの加工食品から、グリホサートが検出される事例が続出するようになりました。もちろん、外国産でも有機農産物であれば大丈夫だし、日本国産では小麦へのプレハーベスト農薬の使用はないので検出されません。パンの原料である小麦(強力粉)は温暖湿潤な日本では作りにくいこともあって、ほとんどが(97 パーセント)外国産の輸入小麦が使われています。

2019年4月農民連食品分析センターが、市販のパン 13 商品を分析した結果、9 商品からグリホサートが検出されたことを発表し、衝撃が走りました。背景にアメリカ、カナダ産であれば、90 パーセント以上の高確率でグリホサートが残留しているという調査報告が、なんと農林水産省から出されているのです。

2、グリホサートの安全神話の崩壊

グリホサートの危険性とは

2018年8月モンサントの唱えてきたラウンドアップ(グリホサート)の安全性神話が覆される判決が、サンフランシスコ地裁で下されました。校庭管理人ドウェイン・ジョンソンさんの悪性リンパ腫の原因が、ラウンドアップの散布作業に原因があるとして損害賠償を求めた裁判で、モンサントの有罪が認められ 3 億ドルの賠償金が命じられたのです(後に上訴によって 8000 万ドルに減額)。

この裁判では「がんを引き起こす可能性がある」というモンサントの秘密文書が明らかになりました。以来4万件を超えるともいわれる裁判がひかえており、次々に有罪と賠償を命じる判決が出ています。モンサントを買収したドイツバイエル社の株は急落しました。

「グリホサートは植物のシキミ酸経路(アミノ酸生成)に作用して効く農薬であり、人間にはシキミ酸経路はないので無害である」これがモンサントの安全性主張の根幹でした。しかし、人間の腸内細菌にはシキミ酸経路を持つものが多くあり、グリホサートによって腸内微生物のバランスが損なわれることなどが分かってきました。それが免疫体系阻害や脳の発達神経系阻害に關与してゐるのではないかと疑われています。2015年には国際がん研究機関(IARC)が「人に対

しておそらく発ガン性がある」ランク 2A と発表しています。それ以来多くのグリホサートに関する研究データが出てくるようになり、それこそ様々な危険性が指摘されるようになってきました。

世界の常識と日本

日本ではグリホサートの残留基準は 6 倍に緩和され、ホームセンターでも全く野放しで売られるようになりました。他の国ではどうなのでしょう。オランダ、フランス、スイス、ドイツではホームセンターでの販売禁止。ベルギー、スウェーデンなども個人、家庭用の使用、販売禁止。オーストリア全面禁止、フランス、ドイツは 2023 年までには全面禁止の方針、アジアでもベトナム、スリランカなど輸入禁止・・・。

このままでは、日本は規制であふれたグリホサートの吹きだまり国になりそうです。特に、農業現場以外で人の集まる所、道路、公園、学校庭、鉄道沿線などを始め家庭菜園や自宅周りなど個人使用も野放し状態です。

資料 各国のグリホサート規制例 有機農業クリップニュースより

<u>2020.05.01</u>	タイ	グリホサート等 3 農薬規制の再延期を認めず
<u>2020.06.27</u>	メキシコ	24 年までにグリホサート段階的禁止へ
<u>2019.09.10</u>	ドイツ	23 年末にグリホサート禁止へ
<u>2019.07.21</u>	オーストリア	国民議会 EU初のグリホサート全面禁止
<u>2018.10.07</u>	チェコ	2019 年からグリホサート禁止へ
<u>2018.08.08</u>	ブラジル	グリホサート製剤の使用を一時禁止
<u>2017.09.26</u>	フランス	グリホサートを 2022 年までに禁止へ
<u>2017.07.06</u>	ベルギー	グリホサートの個人使用を禁止へ
<u>016.08.29</u>	イタリア	グリホサート一部使用禁止（公園、学校など）

3 グリホサートの規制を強化し、販売、使用を中止することを求めます。

予防原則という考え方が大事です。

水俣病の病例確認から 1956 年の公式確認までの間、またその後、公式確認からチッソの工場廃液のメチル水銀がその原因だと認定される 1968 年までの間、チッソは操業を規制することも、されることもなく被害は取り返しのつかないところまで広がりました。未だに広域の健康調査も、やるといったままなされないまま、3000 人未満の方しか認定された患者はいないとされています。誰もが本当の実態はそんなものではないと思っているでしょう。

この体験からも、健康被害の懸念のある農薬などの化学物質の使用に関しては、予防原則という考え方が必要です。今のグリホサート関連の除草剤に関してはまさにそれが問われています。、そういった観点からも、早急に販売や使用を規制していただきたいと考えます。

3、様々な場面でのグリホサート系除草剤の販売、使用の中止を要請します。

- ①、種苗店、JAなどでのラウンドアップをはじめとしたグリホサート製剤の販売を中止して下さい。
- ②、ホームセンターやドラッグストアで個人向け、家庭菜園むけにグリホサート製剤を販売することを中止して下さい
- ③、学校、保育園の校庭、園庭管理にグリホサート系除草剤を散布することを、即刻中止して下さい。
- ④、自治体の道路管理、公園管理にグリホサート系除草剤を散布することを中止して下さい。
- ⑤、鉄道沿線、河川敷の雑草管理にグリホサート系除草剤を散布することを中止して下さい

くまもとのタネと食を守る会では、あらゆる公共の場所で、グリホサートの暴露にさらされる危険がなくなることを目指して活動していきます。

また同時に、とりわけ学校給食の原材料として、グリホサート残留の懸念のある外国産輸入小麦を使わないように働きかけていきます。

くまもとのタネと食を守る会

連絡先 熊本市北区植木町今藤 1140-1

電話 090-6426-3604 (間澄子)

Fax 096-273-1917